

令和3年12月14日

意見発表

小野寺委員

先日の委員会の質疑の折にも意見、要望を申し上げていますが、改めて少々意見を加えさせていただきたいと思います。

コロナ禍というのは大変な災禍ではありましたが、それを奇貨として、量の観光、クオンティティツーリズムから質の観光、クオリティツーリズムへの転換を図っていくべきではないかという観点から質疑をさせていただきました。その際、A級あつてのB級、メインカルチャーあつてのサブカルチャーであること、また、A級といっても何も富裕層ばかり相手にするものではないことなどを申し上げました。

神奈川県民ホールでもオペラの公演が行われることがありますが、オペラのSS席というのは海外オペラの引越し公演などでは、そして有名な歌手が来るということになれば本当に6万円から7万円、もちろん、それを買えるのはいわゆる富裕層の方々だと思うのですが、これは末席の、神奈川県民ホールですとF席のお客様も私はA級のお客様と思っています。

オペラの鑑賞とは、その後の食事などを含めての楽しみなわけですが、神奈川、横浜はそこが弱いのだと以前、委員会の視察で伺った昭和音大の先生がおっしゃっていました。そういうお客様に気持ちよくお金を使っただけの仕組みをつくるのが大切ではないかと考えているところです。

質の観光といっても、業界はコロナ禍で痛めつけられています。結局は、背に腹は代えられぬということで数を頼みとする観光に戻ってしまうのではないかと心配もしています。ゾーニングをしっかりと行うことによって、上質の観光客のニーズをつかむ施策を展開していただけるようお願いします。

次に、セーリングの裾野を広げる取組について申し上げます。オリンピックが終わって、セーリング競技に関する取組を担っていたセーリング課はオリンピック・パラリンピック課に再編、統合されました。オリンピック前に行っていたセーリング競技の機運を醸成するなどの事業は、今後どのように引き継がれていくのでしょうか。オリンピック競技が終わってしまえばモニュメントや記録誌を作っておしまいということであれば、本当のレガシーにはならないのではないかと考えています。質疑の中ではセーリングの大衆化と申し上げましたが、セーリングを多くの神奈川県民に親しんでもらえるスポーツにしていくためには、今後が大切です。健康生涯スポーツとしての、そして障害者も楽しめるスポーツとして振興を図るために、スポーツ局の中にしっかりと取り組む体制をつくっていただきたいと思います。

次に、神奈川県らしいマリンスポーツやビーチスポーツの振興について申し上げます。海や海岸、砂浜の利活用は多様化していますが、その多くは専門、単種目のコアな活動で、一般大衆が気軽に参加しやすい形になっているところはまだまだ少ない、多くありません。誰もが気軽に参加、体験できる環境づくりが必要と考えています。海岸の管理は県土整備局、かながわシープロジェクト

の推進は政策局ですが、海のスポーツやアクティビティなどの内容、コンテンツに精通しているスポーツ局がぜひ積極的に関与していただきたいと思っています。

カリフォルニアなどには、多様なマリンスポーツ、ビーチスポーツが手ぶらで行っても楽しめる都市型のビーチパークが数多くありますので、ぜひ参考にしたいと思います。

以上、意見、要望を申し上げ、公明党として当委員会に付託された諸議案に賛成します。